

## 「無償の学びを支える税」

福岡市立原中央中学校

有野 颯人

「日本はマナーが良い国だ」という、外国からきた方の感想をよく耳にする。たとえば、二〇一一年に発生した東日本大震災では、未曾有の混乱の中でも、支援物資を受け取るために誰一人奪い合いをせず、整然と並んでいたことがニュースになっていた。私はこの「マナーの良さ」は日本人の幼い頃からの教育の影響であると考え。教育は憲法第二十六条によってすべての国民が受けられるように定められている。今、学校にかかる費用はほとんど無料である。例えば、教科書一冊あたりの値段は約七〇〇円である。これらすべての費用は税金によって賄われている。もし、これが税金によって賄われなかった場合、教育の格差が生まれるだろう。

私達がより良い学びを得るために税金が使われている例はいくつかある。例えば図書館だ。ここが無料であることで、費用の心配をすることなく、貴重な資料や文献に触れ、知識を深めることができる。また、二〇二三年度は福岡県内の科学館、博物館を無料で利用できるようになった。これにより、児童の知識への興味を持つきっかけを作る支えになっていると考える。税金は家庭の経済状況によって教育の機会が減ってしまうことを防いでいるといえよう。また、学びたいと思う人の可能性を税金は応援してくれていることを私自身実感している。こうして無条件に国民が教育を受けることによって、日本のモラルは形成されているのだと思う。

私は中学校で放送部に入った。自分の声を校内に響かせるという体験は、人に自分の意思を伝える上で大切な技術だと学んだ。部活動は習い事とは異なり、お金のかからない活動だが、先生方の手厚い指導のおかげで、市のアナウンスコンテストで入賞することができ、自分の新しい可能性に出会えた。私のように無償の活動によって、新しい可能性を見出した生徒は他にもたくさんいると思う。

私はまだ納税をする年ではないが、買い物に行くと消費税を払う。いつもは商品の価格よりも余分に払わないといけないことを厄介なものと思ってしまうが、この税金は私たち子供への、大人からの先行投資だと考えたとき、税金に対して感謝の気持ちが芽生えた。税金の恩恵を受けて育った私はあと3年で納税をする側になる。モラルの高い国、日本を保つために、納税の義務を果たし、無償の教育のバトンを次の世代につないでいきたい。